



[畑・転換畑作部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. ビール大麦の地域適応優良品種「サチホゴールド」

[要約]

二条大麦品種「サチホゴールド」は、「ミハルゴールド」に比べて成熟期が5～6日早い、短稈のビール醸造用品種である。子実の収量は同程度であり、外観品質は優れる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県では「ミハルゴールド」と「スカイゴールデン」がビール大麦契約対象品種として栽培されている。このうち「ミハルゴールド」は成熟期が「スカイゴールデン」より4日程度遅く、オオムギ縞萎縮病が多発することが問題となっている。そこで、「ミハルゴールド」に代わる、早熟で多収、外観品質が優れ、オオムギ縞萎縮病に抵抗性を有する品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ミハルゴールド」と比較した「サチホゴールデン」の特徴は以下のとおりである。
 - (1) 出穂期は8～10日早く、成熟期は5～6日早い。稈長は2～4cm短く、耐倒伏性は同等以上である（表1）。
 - (2) 穂数は少ないが、穂長が長く、千粒重と子実収量は同等で、子実の外観品質は標準施肥では差がないが、多肥条件では優れる（表1）。
 - (3) 子実蛋白質含有率は同等である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「サチホゴールデン」は、令和2年11月に岡山県の地域適応優良品種に採用された。令和4年産から「ミハルゴールド」から「サチホゴールデン」に転換する。
2. 主要農作物品種試験基本調査（表1）は、赤磐市の農研圃場での結果である。この時の施肥は、高度化成肥料を用い、窒素・リン酸・カリウムを10a当たり基肥として4kg・4.9kg・3.7kg、分けつ肥として4.5葉期に4kg・4.9kg・3.7kg、穂肥として幼穂長10mm期以降（おおむね3月第5半旬）に3kg・0kg・3.8kgを施用した。多肥栽培は、各成分とも標準施肥の1.25倍量を施用した。
3. 育成地の報告では、オオムギ縞萎縮病に関して既知のウイルス系統Ⅰ型、Ⅱ型及び「ミハルゴールド」で問題となっているⅢ型には抵抗性を示すが、Ⅳ型とⅤ型には罹病性を示すとされている。
4. 穀皮が薄いので、脱穀、調製に当たっては、はく皮を生じないように注意する。
5. 春播性程度が極めて高いため、極端な早播は霜害による不稔や倒伏を招く。また、極端な晩播は成熟期の遅れを招くので、11月中～下旬に播種を行う。



[具体的データ]

表1 主要農作物品種試験基本調査における生育と収量^z

施肥水準	品種名	播種期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏程度 ^y
		(月/日)	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(本/m ²)	(0~5)
標準施肥	サチホゴールド	11/19 (4.9)	4/8 (6.3)	5/22 (4.5)	80 (8.4)	6.2 (0.6)	597 (167)	0.4 (0.79)
	ミハルゴールド	11/19 (4.9)	4/16 (4.7)	5/27 (4.2)	84 (8.9)	5.8 (0.6)	662 (191)	0.5 (0.85)
	分散分析 ^t	—	***	***	***	***	n.s.	n.s.
多肥	サチホゴールド	11/21 (4.4)	4/8 (6.0)	5/23 (5.0)	83 (7.9)	6.4 (0.5)	584 (126)	0.5 (0.66)
	ミハルゴールド	11/21 (4.4)	4/18 (3.8)	5/29 (4.3)	85 (7.1)	6.1 (0.7)	671 (214)	0.9 (1.30)
	分散分析 ^u	—	***	***	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

施肥水準	品種名	千粒重 ^x	外観品質 ^w	子実収量 ^x	同左比率	子実蛋白質含有率 ^v
		(g)	(1~6)	(kg/a)	(%)	(dm%)
標準施肥	サチホゴールド	48.6 (3.01)	3.7 (0.98)	42.8 (9.17)	102 (17.5)	10.3 (0.84)
	ミハルゴールド	49.5 (2.57)	4.1 (0.60)	41.9 (7.70)	100 —	10.6 (0.68)
	分散分析 ^t	n.s.	n.s.	n.s.	—	n.s.
多肥	サチホゴールド	50.3 (2.60)	3.2 (0.92)	46.7 (8.97)	104 (25.3)	—
	ミハルゴールド	50.1 (3.38)	4.2 (0.71)	45.1 (11.34)	100 —	—
	分散分析 ^u	n.s.	**	n.s.	—	—

^z 標準施肥は平成13年から令和元年の19年間の平均値、多肥は平成20年から令和元年の12年間の平均値、（ ）内の数値は標準偏差

^y 障害等の多少は無(0)～甚(5)の6段階評価

^x 2.5mm篩目で調製

^w 外観品質は上の上(1)、上の下(2)、中の上(3)、中の中(4)、中の下(5)、下(6)の6段階評価

^v 平成24年から30年の7年間の平均値、アサヒビールモルト社調べ

^u 年次と品種を因子とする分散分析における品種の効果、***は0.1%水準で、**は1%水準でそれぞれ有意差あり、n. s. は有意差なしを示す

[その他]

研究課題名：主要農作物品種試験（麦類）

予算区分・研究期間：県単・平13～令元年度

研究担当者：中島舞、中島映信、妹尾知憲、高橋幹子、前田周平、大久保和男

関連情報等：1）中島ら（2021）岡山県農業研報、12：1-10